



平成27年度 公益財団法人日本財団助成事業

地域交流サロンの構築と生きがい就労の支援事業

# 事業報告書

事業実施団体 特定非営利活動法人 楽笑





平成27年度 公益財団法人日本財団助成事業

# 地域交流サロンの構築と生きがい就労の支援事業 事業報告書

事業実施団体 特定非営利活動法人 楽笑

## 目次

□ 事業実施団体の概要	02
□ 今事業の目的	03
□ 事業実施内容	04
□ ワーキンググループについて	05
□ 先進地ツアーについて	07
□ 担い手養成講座について	09
□ 地域共生型コミュニティーサロンについて	11
□ 農作業・花苗モザイク作成について	19
□ 地域の担い手づくりフォーラムについて	21
□ 事業のまとめ及び検証	24
□ 次年度に向けて	29
□ 事業実施団体所見	30



事業実施団体名	特定非営利活動法人 楽笑
団体住所	愛知県蒲郡市三谷町魚町通12番地1
代表者名	理事長 小田 泰久
団体設立年月日	平成19年2月5日
団体役員	4名

### ➡ 活動内容

- ・障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス事業
- ・就労継続支援B型事業
- ・生活介護事業
- ・地域生活支援事業(日中一時支援事業)
- ・相談支援事業
- ・児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
- ・放課後等デイサービス事業
- ・市民協働まちづくり事業
- ・地域活性化イベント事業



### ➡ 過去の活動実績

#### » 平成27年度

- ・市民参加型イベント「第7回ギョギョウランド～やっぱり三谷が好き～」開催
- ・土蔵を改修し障害者アートの展示室「となりのかぐら」開設

#### » 平成26年度

- ・のこぎり屋根工場を改修し放課後等デイサービス事業を開始
- ・市民参加型イベント「第6回ギョギョウランド～やっぱり三谷が好き～」開催
- ・海のまちバリアフリー映画祭inがまごおり2開催

#### » 平成25年度

- ・蒲郡市協働のまちづくりモデル事業委託
- ・市民参加型イベント「ギョギョウランド～I♡MIYA～」開催
- ・海のまちバリアフリー映画祭inがまごおり開催



## 共生型コミュニティサロンの構築

平成26年4月、地場産業のシンボルである「鋸屋根工場」を改修し、障がいのある子どもの支援拠点、地域のふれあい拠点として事業を開始しました。障がいのある方、地域の方に拠点を活用していただく中で「居場所」「生きがい」「就労」という3種類のキーワードが明確になりました。これは、高齢者や障害者といった福祉を必要とする方のみではなく、地域全体の問題であると感じ、楽笑単体で取り組む事では解決できない問題であると考え、多くの関係機関と協働し連携しながら地域課題として取り組むべきだと判断しました。

少子高齢・孤立化社会が問題として挙がる中、地域コミュニティの再構築の必要性が叫ばれ、地方創生のメニューにある地方における多世代交流・多

機能型支援の推進や介護保険制度の改正において、「地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業の充実」とよりその地域の実情に合わせたサービスの構築が求められています。

そこで地域の実情に合わせたサービスの構築を行うため、誰もが参加できる居場所を開放し、地域の方々のニーズを生声として拾い上げゼロから創り上げる場が必要であると考えます。生きがいを持って地域で支え合いながら永続的に暮らせる地域づくりを住民自らの手で考え、創り出すプロセスを今回の協働モデル事業で確立し、全国で同じ境遇の地域に還元したいと考えます。

### → 地域・住民に対する目的

- 1 地域の直近の課題を住民相互で考え、創りあげて行く工程を体感していただく事で、自助、共助と言った地域のつながり、支え合いの再構築の一役を担う。
- 2 蒲郡市の地域コミュニティの強さを再認識して頂き、三谷町だけではなく、それぞれの地域でコミュニティサロンのような活動の場の創設に繋げる。
- 3 今事業に関わりを持った市民に参加を促し、地域福祉に興味関心のない方の意識変革に繋げる。

### → 事業実施団体としての目的

- 1 地域における多くの関係機関との協働を通じ、協力体制の構築を行う。
- 2 楽笑に関わる障がいのある方の参画を通じ、理解と新たな担い手づくりの一助とする。

## 共生型コミュニティサロンの構築

全ての事業において、住民の意見を取り入れ、協働で事業を進めていきます。特に、事業全体のオペレーション、事業構築のプロセスを取り纏め、どの地域でも同様の事業が実施できるように、事業統括組織の機能を中心にまとめていきます。また、対象者の地域住民が今事業を理解していただく為に、地域の産業や伝統文化を取り入れ、ストーリーのある事業内容にしていきます。

1. 市民参加型ワーキンググループ
2. 先進地見学及び市民参加型勉強会
3. 共生型コミュニティサロンの構築
4. 遊休農地を活用した就農の構築
5. 報告会の開催



### 市民参加型ワーキンググループ

地区総代、老人クラブ、社会福祉協議会、地域包括支援センター、福祉事業所、地域住民、蒲郡市役所長寿課・企画政策課、地区市議会議員が参画し、事業実施の大枠の検討、進捗管理、地域住民への参画要請、事業実施のオペレーションの確立を目的に開催する。

開催日時 平成27年4月14日(火)、10月6日(火)、平成28年3月(3回)  
開催場所 キッズサポートセンター千兵衛



### 先進地見学及び市民参加型勉強会

「居場所」「生きがい」「就労」というキーワードから、地域住民の参加者を募り、地域ニーズを把握しながら、参加者の動機づけに繋げる勉強会を開催する。また、市民参画・協働型の居場所づくりの先進地を訪ね、目指すべき方向性を共有する事を目的に先進地見学を行う。

先進地見学 平成27年9月10日(木) 見学地:山草二木行善寺(石川県)  
市民参加型勉強会 平成27年10月2日(金) 講師:社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原裕介氏



### 共生型コミュニティサロンの構築

「居場所」としてキッズサポートセンター千兵衛のワークスペースを週1日開放し、料理教室や体操教室等、交流の場として開催する。また、参加する側と支える側を内容によって交代することで、自分の特技や趣味を生かして「生きがい」に繋げ、夕方には学校帰りの子どもたちが立ち寄れる等、世代を超えた交流場所とする。

開催日時 毎週金曜日 10:00~18:00  
開催場所 キッズサポートセンター千兵衛 ワークスペースのこのこ



### 遊休農地を活用した就農の構築

町内遊休農地を活用し、JA蒲郡市の協力・指導のもと野菜の生産及び花苗の育苗を行う。「就労」の可能性を構築するため、企業への販路確立や生産工程の仕組みづくり、オペレーションづくりを行う。また、三谷祭の花苗モザイク設置を一つの目標とし、多くの方を巻き込み、次年度以降の参加者に繋げ、事業の認知を広げる。

農作業 平成27年6月~平成28年2月 蒲郡市三谷町内農地  
花苗モザイク作り 平成27年6月9日(種まき) 10月11日(花看板設置) JR三河三谷駅前



### 報告会の開催

一年間の事業を総括し次年度以降の方向性と蒲郡市における地域支援事業の在り方を検討。また、先進地事例を報告することで、今回の取り組みの立ち位置を市民に理解していただく事で、今後の活動の担い手としてのモチベーションにしていただく。

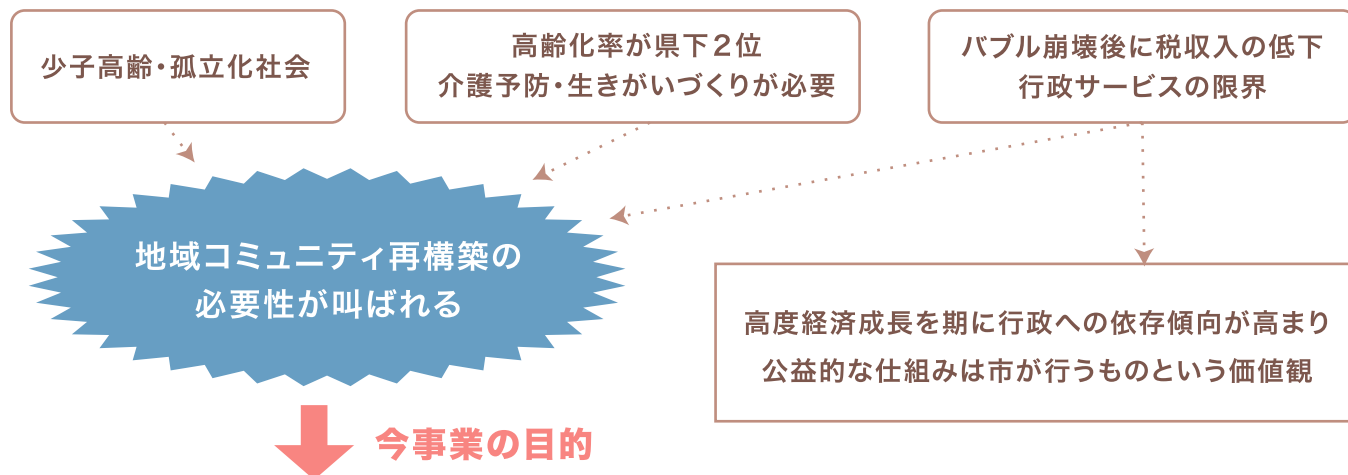
開催日時 平成28年3月5日(土)  
開催場所 三谷温泉平野屋 コンベンションホール 神楽囃





## 市民参加型ワーキンググループ

第1回 2015年4月14日 第2回 2015年10月6日 第3回 2016年3月8日  
 キッズサポートセンター千兵衛 アトリエ



行政や福祉従事者だけでなく当事者となりうる地域住民と共に考え、市民協働型でゼロから形を創り上げる事で地域機能の再構築を行う。

事業を展開する為に地域の合意を取る必要があります。サロン事業を行う地域の区長である総代を中心に対象者の把握をする為に地区の老人クラブ、担い手を集める為にまちづくり・ボランティアNPO、介護保険との連動と地域の実情を把握する為に地域包括支援センターに所属する方を選定しました。また、地方創生にも関わる事から、行政側として蒲郡市企画部企画政策課の方にオブザーブ頂きました。

### ワーキンググループ参加者 委員

山内 一正	三谷町西区 総代
広浜 弘泰	三谷老人クラブ高砂会 会長
藤城 直司	社会福祉法人蒲郡市社会福祉協議会 事務局長
山田 泰伸	蒲郡市東部包括支援センター 主任介護支援専門員
竹内 啓明	特別養護老人ホーム 穂の国荘
藤田 知子	三谷町民(高齢者福祉従事者)
小田 泰久	(特)楽笑 理事長

### ワーキンググループ参加者 オブザーブ参加

伊藤 勝美	蒲郡市議会議員
三浦 正博	蒲郡市 市民福祉部 長寿課 課長
西浦ひろみ	蒲郡市 市民福祉部 長寿課
小林夕希子	蒲郡市 市民福祉部 長寿課
肥田 道雄	蒲郡市 企画部 企画政策課
平野 貴弘	蒲郡市 企画部 企画政策課
小田 由美	(特)楽笑 事業実施担当者 (事務局)
中谷歌奈子	(特)楽笑 事業実施担当者 (事務局)

## 第1回 2015年4月14日 13:30~15:30

### 地域交流サロンの構築と生きがい就労の支援について

本事業の概要説明 / 蒲郡市の現状について / 国の方向性について / 先進地の事例について

### 今後の事業の流れについて

事業実施のスケジュール / 皆さんへの協力依頼事項 / その他



## 第2回 2015年10月6日 13:30~15:30

### 地域交流サロンの構築と生きがい就労の支援事業現状報告について

4月~9月までの活動実績報告 / 先進地見学報告 / 勉強会報告

### 今後の事業の流れについて

今後の事業の流れ / 下半期事業実施案内チラシについて / 地域の担い手づくりシンポジウム4について



## 第3回 2016年3月8日 13:30~15:30

### 市民協働による地域共生型サロン現状報告について

今年度の事業統括と報告 / 冊子の確認 / 地域の担い手づくりシンポジウム4について(報告)

### 今後の事業の流れについて

次年度の動きについて / その他



## 先進地見学ツアー

平成27年9月10日(木) 見学地:山草二木行善寺(石川県)

共生型の地域づくりを先駆的に行っている事業所、団体を視察見学する事で、事業実施のイメージとアイデアの共有に繋げ、より良いサロンの構築に向け、石川県白山市にある山草二木行善寺へサロン参加者と共に見学に伺いました。

### 山草二木行善寺 実施主体:社会福祉法人 佛子園

古くから地域のシンボルとして機能していたお寺を改修し、地域の憩いの場として活用している。また、施設内にブータン産の蕎麦を扱う飲食店やカラオケルーム、地域の方々が作った野菜やお米の販売コーナーや温泉施設もあり、地域の方が集まりやすい仕掛けが多くそろっている。温泉施設は地元の方々に無料開放しており、地域の居場所として機能している。平成28年の秋には乳児保育園やスイミング施設等、地域住民全体を対象としたプロジェクトを計画している。



### 見学概要

見学日 平成27年9月10日(木)

参加者 ふれあいサロン参加者7名 事務局3名

名称 山草二木行善寺

実施主体 社会福祉法人 佛子園

見学対応 社会福祉法人 佛子園 法人本部本部長 西田宏一郎氏

所在地 石川県白山市北安田町546

開所時間 午前11時から午後9時



### 参加者の声

施設内にも人を引きつける仕組みがいくつかありました。個室の家族風呂や、大浴場・足湯・売店・カラオケスタジオ・カフェ・クリーニング店があり、温泉のメンテナンスやカフェの厨房では障がい者も一緒に働いていました。売店では駄菓子の販売や佛子園で作ったみそや梅干しのほか、近隣の農家から持ち込まれる野菜やお米の販売も行っていました。温泉施設を無料で開放することで地域の方も「自分たちの風呂だから」と毎日温泉の掃除に参加してくれるそうです。助け合いの心、持ちつ持たれつ、お互い様の精神が世代も、障がい、高齢といった福祉の枠を超えたコミュニティづくりを作り上げているように感じました。





## 担い手づくり養成講座について

平成27年10月2日(金) 講師:社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原裕介氏

## ごちゃまぜ福祉と地域包括ケアシステムの構築について

北海道石狩郡当別町にて共生型地域オープンサロン、共生型地域福祉ターミナル、共生型コミュニティ農園を地域住民と協働し、障がい者、高齢者、児童の福祉サービスやニーズをごちゃまぜにして複合的に事業を展開しています。事業実施に向けた背景と地域住民のニーズを形に変えてきたプロセスの話をして頂きました。

開催日 平成27年10月2日(金)

開催時間 13:00~16:30

参加者 町民13名、行政1名、民生委員2名、事務局3名

講師 社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原裕介氏



### 社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原裕介氏 講師プロフィール

1979年生まれ。北海道医療大学卒業後、同学大学院看護福祉学専攻科臨床福祉専攻修士課程へ進学。2005年NPO法人を設立、2012年より現職。厚生労働省社会保障審議会障害福祉部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、北海道医療大学客員教授、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク代表理事、一般社団法人FACEto FUKUSHI代表理事なども務める。



## 共生型地域オープンサロン

- ・障がい者の就労拠点(喫茶店)
- ・子どもたちの遊ぶ場(駄菓子屋さん)
- ・高齢者の介護予防ボランティア活動  
「介護予防の観点からの社会貢献型ボランティア活動」
- ・駄菓子屋さんで手先運動(値札付け)などの介護予防ボランティア
- ・日本舞踊の練習の後の子育て相談
- ・一人での囲碁打ちから子どもの囲碁指導員へ



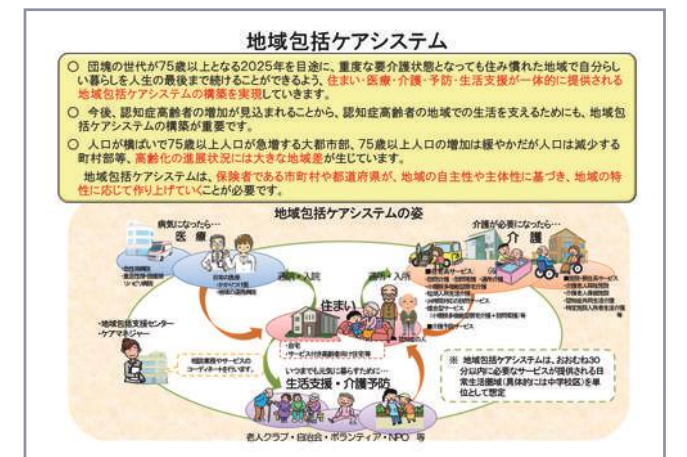
## 共生型地域福祉ターミナル

- ・社協とNPOの総合ボランティア拠点
- ・介護予防ボランティアなどのコーディネート
- ・地域の日常的な世代間交流スペース



## 共生型コミュニティ農園

- ・障がい者の就労拠点(レストラン)
- ・高齢者の就労拠点(農園)
- ・あらゆる住民たちの交流拠点  
「遊ぶ・出かける・働くのオーダーメイド生活支援」
- ・講習を受けた住民による要支援高齢者の外出支援
- ・独居高齢者などを対象とした  
活動を自ら決めるハイブリットサロン支援
- ・認知症高齢者の農業就労支援



地域包括ケアシステムについて ※28ページに拡大版を参考掲載





## 共生型コミュニティーサロンの構築

ワーキンググループでの意見を反映し、先進地見学、担い手養成講座を受け、地域のニーズに耳を傾け、市民と共に地域に根付いたコミュニティーサロンとして一つずつ形に変えてきました。

右記6つをイメージし、比較的高齢者の方が集える居場所づくりをコンセプトにサロンの活動を始めました。多世代交流による相互関係の構築は共生の地域づくりには必要不可欠です。徐々に対象者と回数を増やしていくように無理のない範囲でやる事が継続して行くことも含め重要であると感じました。

### サロンコンセプトメイキング

1. 子どもから高齢者まで多世代が集まる場所
2. 高齢者や認知症の方が集まる場所
3. 子育て世代やその子どもが集まる場所
4. 障がいがある方が集まる場所
5. 団塊世代が「生きがい」や「やりがい」を得られる場所
6. 誰もが集まることが出来る場所



## コミュニティーサロン概要

### 開催

毎週金曜日 10:00~18:00  
※詳細は次ページ参照

### 参加費

- ・各講座参加費 実費（講師指定の金額）
- ・各雑貨づくり等の材料費 実費（必要材料費を参加人数割）
- ・珈琲1杯 100円

### サロン拠点

**キッズサポートセンター千兵衛**  
サロンを行う拠点は、障がい児の福祉サービスを提供する場所で、地域の方々から「私たちにあまり関係のない場所」という認識が広まっていた。地域の方が使える居場所だという事を広く広める為に、拠点に立ち寄りやすい仕掛けづくりや入りやすくする工夫が必要であると感じました。



	4月	5月	6月	7月
活動日 参加人数	10日（4名） 17日（4名） 24日（7名） 合計日数 3日 合計人数 男性 0名 女性 15名	8日（12名） 15日（6名） 22日（8名） 29日（15名） 合計日数 4日 合計人数 男性 0名 女性 41名	5日（10名） 12日（10名） 19日（14名） 27日（18名） 合計日数 4日 合計人数 男性 4名 女性 48名	3日（11名） 17日（8名） 24日（20名） 31日（20名） 合計日数 4日 合計人数 男性 0名 女性 59名
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おしゃべりクッキング 葉野菜の会</li> <li>○おしゃべりクッキング 葉野菜の会</li> <li>○おしゃべりクッキング レンジで桜餅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おしゃべりクッキング よもぎ餅作り</li> <li>○創作活動 カゴバック作り</li> <li>○創作活動 カゴバック作り・優しいヨガ</li> <li>○おしゃべりクッキング オムレツトースト作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おしゃべりクッキング 夏野菜のピクルス作り</li> <li>○創作活動 カゴバック・巾着</li> <li>○おしゃべりクッキング ビールのようなリンゴゼリー・優しいヨガ</li> <li>○おしゃべりクッキング まきちゃんの箱寿司作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>○創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>○おしゃべりクッキング 千兵衛に通う子供たちと流しそうめん会</li> <li>○おしゃべりクッキング 千兵衛に通う子供たちとお好み焼き会</li> </ul>
対外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館に挨拶</li> <li>○回覧板配布</li> <li>○公民館チラシ配布</li> <li>○ヨガの先生に連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨガの先生と打ち合わせ</li> <li>○寿司作り打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○千兵衛スタッフと交流会の打ち合わせ</li> <li>○まちづくりの参加者に交流会の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくりメンバーと納涼祭会議</li> <li>○オカリナ奏者と打ち合わせ</li> <li>○徒歩3分以内の千兵衛近隣民家に納涼祭チラシ配りを行う</li> <li>○三谷公民館閲覧コーナーにチラシを掲示</li> <li>○小学生にチラシ配布</li> </ul>
参加者及び地域の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者が呼びかけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者が呼びかけが増える。企画に参加するのではなく、散歩のついでにコーヒーとパンを食べに来てくれる人もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少しのそきにきたと男性が遊びにきてくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいがあるメンバーの補助をしながら一緒に楽しんでクッキングしてほしいとお願いと、快く引き受けてくれ積極的に関わりを持つとうと声をかけてくれた。</li> </ul>
活動の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャベツがとれたと持っていきと参加者が自主的に講師となり教えてくれた。別の企画を考えていたが、人数が少ないこともあり、参加者にやりたいことを決めてもらい葉野菜の会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カゴバックを試しに企画。一回で作成できない事から、個々のペースで作成していくことになる。</li> <li>○カゴは作れない巾着作りなら出来るからやりたいと声が上がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男性がコーヒーを飲み仲間立ち寄りしてくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域との交流で買い出しを参加者と千兵衛のメンバーで行うことも一緒に調理をすることもいい関わりが出来た。交流ゲームでは、一緒に行うことで距離も縮み一緒に楽しむことが出来た。</li> <li>○これをきっかけにボランティアで来てくれる人が出来た。</li> </ul>
その他の気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者が講師になり、伝える喜びが生きがいになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カゴは作れないからを参加を断念する参加者を見て、やりたいことを聞き、創作活動はカゴと決めず、巾着作りなど興味のあることを好きな人たちで行ってほしいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コーヒーを気軽に立ち寄り飲めるような落ち着いた空間であれば男性も継続して参加していくのかもと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味があってもなかなか自分から言い出せないこともある。少しの言動も聞き逃すことなく拾い上げ形にしていけるようにならないといけないと感じた。</li> </ul>





	8月	9月	10月	11月
活動日 参加人数	7日(10名) 21日(50名) 28日(18名) 合計日数 3日 合計人数 男性 20名 女性 58名	4日(12名) 18日(10名) 25日(15名) 合計日数 3日 合計人数 男性 0名 女性 37名	2日(12名) 9日(15名) 16日(17名) 23日(8名) 30日(15名) 合計日数 5日 合計人数 男性 2名 女性 65名	6日(15名) 15日(5名) 13日(10名) 20日(20名) 27日(11名) 合計日数 5日 合計人数 男性 0名 女性 61名
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>納涼祭 日頃の感謝を込めて</li> <li>オカリナと中国弦楽器 ニコの演奏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着・優しいヨガ</li> <li>おしゃべりクッキング 赤飯まんじゅう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着・担い手講座</li> <li>おしゃべりクッキング 餅入若鮎作り</li> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着・優しいヨガ</li> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>おしゃべりクッキング 災害用キャベツを使った レシピ・優しいヨガ</li> <li>おしゃべりクッキング 中ちゃんの芋まんじゅう作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>ギョギョウランドにて 作品販売</li> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>おしゃべりクッキング 災害用キャベツを使った レシピ・優しいヨガ</li> <li>災害時の対処方法AED体験</li> </ul>
対外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本福祉大学大道芸サークルに依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おにまんじゅうレシピの確認・打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防本部出前講座打ち合わせ</li> <li>災害時クッキング打ち合わせ</li> <li>ギョギョウランド販売準備・流れ打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリスマスリース講師と打ち合わせ・買い出し物品確認</li> <li>お正月リース打ち合わせ</li> <li>日本福祉大学大道芸サークル直前打ち合わせ</li> <li>読み聞かせ講師と打ち合わせ</li> </ul>
参加者 及び地域 の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が踊りを披露したり、カラオケしたり、得意なことを披露したり、まちの人が楽しめる祭りがしたいと希望される。</li> <li>祭りに向け、皆で内容を決める。スタッフは地域への呼びかけに力を入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カゴバックに興味を持ち参加される方が少しずつ増加。巾着作りも得意な人に相談し制作を楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちの人が講師になることで、講師の友達も応援団として駆けつけ、教える側も教えられる側もたのしく行えている様子。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練を兼ねた講座も詳しく知ることが出来た、勉強になったと声が上がります。とても真剣に取り組んでいる様子がうかがえた。</li> </ul>
活動の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>とても積極的に取り組んでくれている。</li> <li>地域の子供も入り子供に圧倒されてしまい本来の目的が達成出来なかった。</li> <li>いろいろトラブルもあり多くの課題を残した。</li> <li>ダメだったところも含め又来年成功させようといってくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だけのオリジナルバックを楽しんで制作する様子が見られる。</li> <li>巾着作りはバザーに出展するためにサロン以外でも作成してくれ、それを見るのを楽しみながら、価格を決めたり意見を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめてくる方も、知り合いが講師でいるとお手伝いに回ることが出来、傍観者にならず、参加しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作る、楽しむ以外に学ぶと売れるも加わり、いろいろ楽しみ方の幅が広がった。</li> </ul>
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>納涼祭の目的をしっかりと頭に置き、まちのメンバーと成功に繋げたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のペースで行うことが出来る。縛りが無い。やる気がない時はお話をしていけばいい。という気軽さが継続に繋がっているのではないだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節にあった食べ物を使う企画は会話も広がり個々の知識が飛び交い勉強になる。そこから次回行いたいことが決まることも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人が人を呼び少しずつ仲間が増えてきた。</li> </ul>

	12月	1月	2月	3月
活動日 参加人数	4日(8名) 11日(10名) 16日(12名) 18日(13名) 25日(30名) 合計日数 5日 合計人数 男性 13名 女性 60名	8日(13名) 15日(12名) 22日(15名) 29日(15名) 合計日数 4日 合計人数 男性 0名 女性 55名	5日(15名) 12日(14名) 19日(1名) 26日(1名) 合計日数 4日 合計人数 -	4日(1名) 5日(1名) 11日(1名) 18日(1名) 25日(1名) 合計日数 5日 合計人数 -
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動+脳トレ カゴバック・巾着</li> <li>クリスマスリースづくり</li> <li>忘年会 和食処妻にて食事会</li> <li>お正月リース作り</li> <li>クリスマス会 絵本読み聞かせ 大道芸ビンゴゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年初めのお茶会 今年一年の行事を決める</li> <li>針と糸で作る巾着作り 1回目</li> <li>針と糸で作る巾着作り 2回目・優しいヨガ</li> <li>おしゃべりクッキング 白菜料理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> <li>おしゃべりクッキング 油がし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> <li>シンポジウム</li> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> <li>創作活動 エコクラフト雑貨初級</li> </ul>
対外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>白菜レシピ打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>油菓子のレシピ確認・打ち合わせ</li> </ul>		
参加者 及び地域 の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節にあった制作に積極的に取り組む姿勢が見受けられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁縫のような難しいことは出来ない。普段からやらない。裁縫は好き嫌いがあり敬遠された。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が呼びかけ。</li> </ul>
活動の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>孫と来たよと遊びに来たよと楽しんでいった。</li> <li>子供も大人も楽しめる絵本の読み聞かせはとても集中して聞いている様子。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手なところは得意な人が補うことで苦手な人も制作活動を楽しめた。裁縫の日と決めず、どれを行ってもいいように選んでもらえば良かったと反省。</li> </ul>		
その他の 気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで楽しむゲームや、演出を観るのはいつものようにぎわい方と違い、ゆったりと楽しむ感覚。新鮮だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行う前に必ず、本人の意思を確認することえを忘れない。</li> </ul>		





## ■ プログラム

おしゃべりをする場として提供するだけでも良いですが、魅力ある「イベント」を通じ、参加者の幅を広げようと企画をしました。参加者の特技や強みを活かし、講師として活躍していただく事も「生きがい」や「やりがい」に繋がり、内容の企画も参加者に参画していただく必要性を感じました。また、サロン事業で作成した小物や手芸作品等、参加者の趣味を発表できる場や展示スペースも必要です。

## ■ 参加者告知方法

参加対象者を「三谷町民」とターゲットを絞り、回覧板や三谷町老人クラブ会員への情報発信を行いました。回を重ねるごとに地域の方への認知は広がって行きましたが、やはり一番は口コミによる効果です。参加者の口コミは効果はありますが、事業実施団体事務局がチラシをもって近所や諸団体へあいさつに伺う事で、顔が見える関係性が構築でき、口コミの効果も上がります。

- 1. 回覧板への配布
- 2. 老人クラブ会員への配布
- 3. 蒲郡市東部地域包括支援センター会報誌「星越峠」掲載
- 4. フェイスブック等SNS
- 5. 市役所長寿課・公民館窓口でのチラシ掲示
- 6. 口コミ
- 7. 事務局によるチラシ配布と地域への挨拶回り、関係性作り



4月 おしゃべりクッキング ～レンジで桜餅～



5月 おしゃべりクッキング ～よもぎ餅作り～

## ■ 地域への啓発理解、連携の重要性

自治会の仕組みやルールは住み暮らすまちによって様々です。今事業を実施した三谷町でも総代会の協力、理解が地域の方の安心に繋がり、関係性を構築する始まりになりました。参加者告知方法でもありましたが、新たに地域の方々を対象とする事業を行うには、関係性を構築し協力体制につなげる為にも、実施団体の地域へのあいさつ回り等は欠かせません。他に、社会福祉協議会、NPO団体、地域包括支援センター、老人クラブ、ボランティア団体等の連携も必須であると感じました。



7月 おしゃべりクッキング ～千兵衛に通う子供たちと流しそうめん会～



8月 納涼祭 日頃の感謝を込めて



12月 クリスマス会 絵本読み聞かせ・大道芸ビンゴゲーム





## 活動報告

一緒に創り上げる楽しみ、人と話す楽しみ、学べる喜びが人の輪を広げてくれる結果となりました。人の輪が出来れば自然と興味関心の輪が広がり、旅行好きな人は旅行を企画したり、裁縫好きな人は洋裁講座を企画したり、楽しいことをみんなで考え実現していくことで継続に繋がります。

こういった個々の強みを引き出し、好きな物、得意なことをとことん追求することでより魅力ある居場所になり、それこそが、ひとが惹かれる要因の1つになると考え、楽しい会話の中から個々の強みに繋がるヒントを見つけていく必要があります。



## 参加者の声

- » おしゃべりが出来る。
- » 料理教室は見ているだけでも楽しい。
- » 1人で家にも意味がない。
- » 縛りがなく気軽に参加できる。
- » いろんな情報が入る。
- » 若いスタッフにエネルギーをもらっている。
- » 創作やクッキングで教え合いっこ出来る。
- » 非常食を使ったアレンジ料理が面白かった。
- » 健康相談なども出来るとよい。
- » 講座があると一人でも参加しやすい。
- » 友達に会える。顔は知っていたけど、ここに来て仲良くなった。
- » 作って売ることに関しては、損はしたくないが、特に考えてない。  
ギョギョウランドでの販売はみんなで楽しいことの為に行うのは、楽しいし、自分が何かの役になれたらと思い、楽しんで制作することが出来た。
- » いろんな人が来ているのがいい。子どもから、障がいのある子ども、自然に関われる感がいい。
- » 受け身でメニューを受けるのではなく、自ら企画して作り上げていくのも楽しい。
- » 継続する為の資金を生む為に作った物を販売することには賛成。
- » この辺りは独居の男性も多く、糖尿の方も多。その人たちに料理を作って振る舞いたい。
- » 参加者の中にいろんな特技を持っている人が多く入れ替わりで講師を行うことでサロン以外でも聴きにいたり、一緒に作ってみたりと繋がるきっかけをつくってくれた。



## 次年度へ向けての改善提案

- 💡 参加される方の人数が安定してきたことから、活動中の参加者から次の活動内容を一緒に考え決定していく等、住民参画の場面を少しずつ増やしていく。
- 💡 地域全体への啓発も兼ね、夏祭り等の参加しやすいイベントを企画する。
- 💡 男性参加者が参加できる内容を農業以外に増やしていく。農業に協力してくれている方々を中心に参加者の輪を広げていく。
- 💡 保健センターとの連携を取り、健康相談にも力を入れていく
- 💡 子育て中の主婦や20代～50代の年齢層の方にも参加して頂く内容を取り入れる。
- 💡 コミュニティワークの出来る人材(サロン運営側)の育成





## 農作業・花苗モザイク作成について

### 野菜栽培講習会参加、地域のお祭PRを兼ねた花看板設置

遊休農地を活用し、蒲郡市農業協同組合の協力、指導のもと野菜及び花苗の生産を行う。「就労」の可能性を構築する為、企業への販路確立や生産工程の仕組み、オペレーションづくりを行う。また、事業の達成感を明確にする為、地域のお祭PRを兼ねた花看板設置を一つの目標に定め、多くの方を巻き込み、次年度以降の参加者に繋げ、事業の認知を広げる。



## 野菜栽培講習会参加(蒲郡市農業協同組合主催)

平成27年4月より平成28年2月までの全18回、蒲郡市農業協同組合営農指導課による野菜栽培講習会に参加。栽培方法(スイートコーン・キャベツ・ダイコン・ハクサイ等)から遊休農地の活用方法、JA蒲郡市グリーンセンターへの産直販売の方法など一連の流れを学びました。講習会に参加した方々からこちらの趣旨に賛同して下さる方が6名みえ、平成28年度に向けて準備を進める事が出来ました。

### 農作業を就労に結び付けるには……

以下の5つのポイントを整理する事から始める必要があります。

- 1. 農業協同組合と協力体制の構築
- 2. 農業の専門的なノウハウ
- 3. 農業委員会との連携
- 4. 担い手と役割の明確化
- 5. 必要経費のルール

## 地域のお祭PRを兼ねた花看板設置

地域に馴染みのある「祭」をキーワードに新たな担い手を発掘する為に、小学生、保護者を対象にした花看板の設置を行いました。蒲郡市立三谷小学校の協力により、種まきを小学4年生対象に行い、保護者向けにチラシの配布等がスムーズに行う事が出来ました。また、三谷祭のデザイン、JR東海道本線三河三谷駅前に看板を設置したことから、三谷町総代会、三谷祭保存会、東海旅客鉄道株式会社、蒲郡市都市計画課といった新たなステークホルダーとの新たな協働の可能性を見出す事にも繋がり、次年度以降、地域での活動に有益な関係性の構築に結び付けることが出来ました。しかしながら、イベントという手法を用いた新たな担い手づくりは予想以上に出来ませんでした。また、単発で終わってしまった為、継続して関わりを持って頂けるような担い手づくりまでには至りませんでした。次年度以降もイベントという手法と新たな手法で幅広い担い手づくりを行う必要があります。

### 新たな担い手を発掘するためには……

以上4つのポイントを運営側が準備したうえで進める必要があります。

- 1. 担い手になって欲しいターゲットを絞る(子ども・子育て世代・年代別等)
- 2. ターゲットに対するアプローチ  
(例)子どもをターゲットにするなら学校や子ども会、スポーツ少年団との連携
- 3. 無理なく参画しやすい役割の準備
- 4. 次につながるフォローと長期的なビジョンの共有

## 遊休農地を活用した就農の構築に関するまとめ

「遊休農地」「就農」というキーワードから農作業をモデルとして行いましたが、あくまでも一つの選択肢であると感じました。「生きがい」や「はたらく」というニーズは幅広く個々に合ったコンテンツを用意する必要があります。個別に対応するには、多くの分野の方々に協力を得なければ対応する事は出来ません。次年度は多くのステークホルダーと協働し、コンテンツの創出と地域住民とのパイプ役となるコーディネート機能の整理が必要であると考えます。





## 地域の担い手づくりシンポジウム4 ～豊かに地域で生きる、これからのまちの創造に向けて～

平成28年3月5日(土) 三谷温泉 平野屋 神楽囃  
シンポジウム 13:30～16:33 懇親会 17:00～18:30

少子高齢・孤立化社会の問題を支えるには、地域力が必要不可欠であり、人と人が支え合うという地域コミュニティの重要性とこれからの社会の在り方、地域への期待を社会福祉法人ゆうゆう理事長大原裕介氏の実践から、これからの地域社会に求められる機能についてご講演頂きます。また、今年度のコミュニティサロンの実施報告から、今後の方向性と事業の進め方について参加者とともに考え、地域住民が主導となって取り組める機能づくりと参画意識を高める事を目的とした内容のシンポジウムを開催します。

障がい分野だけではなく、児童から高齢の方までを対象とする内容にすることで、幅広い対象者にこれからの地域福祉の在り方を学んでいただく事が出来、蒲郡市に必要な資源を共に考える機会につながる事が出来ると考えます。

### 1 基調講演 豊かに地域で生きる、これからのまちの創造に向けて 講師 社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原裕介 氏

### 2 さんかく屋根のふれあいサロン事業報告風の座談会

1年間の活動から見えた今後の居場所づくりに必要な機能と在り方を整理します。

報告者 特定非営利活動法人楽笑 まちづくり事業部 小田由美

報告者 特定非営利活動法人楽笑 まちづくり事業部 中谷歌奈子

報告者 株式会社インサイト 関原深 氏

### 3 パネルディスカッション これからのまちに必要な機能のヒントはここにある！お寺の実践教えて！！

パネリスト:浄土真宗本願寺派 常願寺 副住職 赤淵淳心(あかぶちじゅんしん)氏

パネリスト:社会福祉法人 佛子園 法人本部 本部長 西田 宏一(にしだこういち)氏

コーディネーター:小田泰久 所属:NPO法人楽笑 理事長

#### 事業概要

日時	平成28年3月5日(土) シンポジウム 13:30～16:33 (13:00受付開始) 懇親会 17:00～18:30 (16:35受付開始)
会場	三谷温泉 平野屋 神楽囃 〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町南山1-21
開催協力	主催 特定非営利活動法人 楽笑 共催 一般社団法人start from Miya 後援 蒲郡市、三谷町総代会、社会福祉法人蒲郡市社会福祉協議会 助成 公益財団法人 日本財団

## 事業実施に至る背景

少子高齢・孤立化社会が問題として挙がる中、地域コミュニティの再構築の必要性が叫ばれ、今まで機能していた地縁組織、繋がりを行政や福祉従事者だけではなく、当事者となりうる地域住民と共に考える場が必要であると考えます。

## 事業の目的

### » 担い手としての参画

市民の方の明るい豊かな将来をイメージしていただき、今後の担い手として参画していただくように意識付けを行います。

### » 活動の場の創設

蒲郡市の地域コミュニティの強さを再認識していただき、三谷町だけではなく、それぞれの地域でコミュニティサロンのような活動の場の創設に繋がります。

### » 意識変革

今事業に関わりを持った市民に参加を促し、地域福祉に興味関心のない方の意識変革に繋がります。

### » 次年度以降に向けて

これからの地域社会の在り方や先進地の取り組みを知ることによって次年度(平成28年度)以降の事業実施における方向性を考える一助とします。

## 過去開催の様子



2015年3月28日に開催した、地域の担い手シンポジウム3「共に生きるこれからの地域社会の創造に向けて」の様子





## 大原 裕介 氏 社会福祉法人ゆうゆう 理事長

1979年生まれ。札幌市出身。北海道医療大学卒業後、同学大学院看護福祉学研究科臨床福祉専攻修士課程へ進学。2005年NPO法人を設立、2012年より現職。厚生労働省社会保障審議会障害福祉部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、北海道医療大学客員教授、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク代表理事、一般社団法人FACE to FUKUSHI代表理事なども務める。



## 関原 深 氏 株式会社インサイト 代表取締役

前職の㈱三和総合研究所(現:三菱UFJリサーチ&コンサルティング㈱)では 経営戦略部門に所属し、多様な業界・業態の東証一部上場企業から中堅・中小、国内外のベンチャー企業まで幅広くサポート。10年間で100案件以上のプロジェクトに携わる。07年創業後は、障害者の「はたらく」を中心に、障害福祉事業所・障害者雇用のコンサルティングや、厚生労働省、財団等の障害者に係る研究支援等を実施。凡事徹底主義であり、ビジョンある丁寧な積み重ねが成果を生み出すと信じて活動中。



## 赤渕 淳心 氏 浄土真宗本願寺派 常願寺 副住職

静岡県富士市神戸(ごうど)にある浄土真宗本願寺派常願寺副住職。1999年～2007年、京都の龍谷大学にて浄土真宗の教義や部活動のなかで寺院での土曜学校(子ども会活動)を学ぶ。在学中に僧侶となり、2007年自坊に奉職、その後結婚を機に副住職就任。10年前から門徒の方々や地域の高校・大学生などの若手とともに常願寺一泊子ども会を開催。寺務の他、地元の学童保育で非常勤講師も務める。



## 西田 宏一郎 氏 社会福祉法人佛子園 法人本部 本部長

1967年石川県金沢市生まれ。協同組合、キャリア教育誌出版を経て、2009年社会福祉法人佛子園に入職、児童デイサービス「エイブルベランダBe」配属。2012年障害者支援施設「星が岡牧場」施設長着任、「三草二木西園寺」代表兼務。2014年法人理事、2015年法人本部長就任。



## 小田 泰久 NPO法人楽笑 理事長

蒲都市三谷町生まれ三谷町育ち。2007年NPO法人楽笑を設立し理事長に就任。パン工房八兵衛、酒菜屋十兵衛、日中支援センター禄兵衛、キッズサポートセンター千兵衛と三谷町内4拠点にて事業を展開。三谷町のコミュニティーが持続可能な地域を目指し、三谷祭の公式ホームページの運営や三谷漁港のイベント「ギョギョウランド」を手掛けている。2014年一般社団法人start from Miyaを設立、代表理事に就任。

## その他・参考資料

25～27p 場をつくる(株式会社インサイト)  
28p 地域包括ケアシステム



### 「場づくり」の仕組み ~複雑系：創発システム~

・流れは予測できない (モデルは組めない)  
・しかし、創発を生み出す「条件」は解明されている

【事例】  
・乱流  
・PCのCPU  
・BB・ケータイ普及状況  
・VHSとβ  
・雁の群れの動き  
・経済学  
・神経と脳 等々

①自己組織化 ②共鳴 ③共進化 ④分岐

全体システム=創発

①自己組織化：小さなゆらぎ、個々が一定の規則に基づいて自発的に活動  
②共鳴：創発が全体を形成、性質が変わる  
③共進化：個と全体の相互作用による収獲適増 (外的要因：多くの場合、競合参入/価格競争)  
④分岐：条件で次に繋がる/墜落するが大きく変わる

前提条件  
①自己組織化 ②共鳴 ③共進化 ④次の系へ 淘汰へ

小さなゆらぎが自発的に活動 全体を作り性質が変わる 主流が周辺を巻き込み 周辺が主流を加速する

INSIGHT I'm always here for you. Copyright Insight Co., LTD. All Rights Reserved 1

### 【ご参考】「①自己組織化」状態にするための条件

#### 【「創発」を確実に起こす方法とプロセス】

- 徹底した議論 …… 頭脳をつなげ、流入してくる情報・事象を受け止める  
(※上長がニュートラルに話を聞かない・受け止めない→正しい情報が流入しないことが殆ど)
- 試行錯誤 …… 1の議論で生まれたアイデアを必ず試してみる
- 自省作用 …… 失敗を通して時代の流れと場の状況を理解しようとする

<資料：唐沢 昌敬「創発型組織モデルの構築」(2002.5), 慶應義塾大学出版会より(株)インサイト加工>

INSIGHT I'm always here for you. Copyright Insight Co., LTD. All Rights Reserved 3

### 【ご参考】「場づくり」の方法 ~クライアントの盛り上げ方~

- 今、クライアントはどの状態なのか？を確認する  
→①自己組織化 or ③共進化
- その上で作戦を考える  
→①自己組織化：創発を生み出す条件を整える  
→③共進化：Spiral upを崩さないようにする/外的要因に対処する

①自己組織化 ②共鳴 ③共進化 ④分岐

全体システム=創発

①自己組織化 ②共鳴 ③共進化 ④次の系へ 淘汰へ

小さなゆらぎが自発的に活動 全体を作り性質が変わる 主流が周辺を巻き込み 周辺が主流を加速する

INSIGHT I'm always here for you. Copyright Insight Co., LTD. All Rights Reserved 2

### 普及の法則 ~イノベーター理論と購買意欲~

- 1962年、スタンフォード大学のエベレット・M・ロジャース教授が提唱した、イノベーションの普及に関する理論

普及率16%の論理  
普及率2.5%の論理

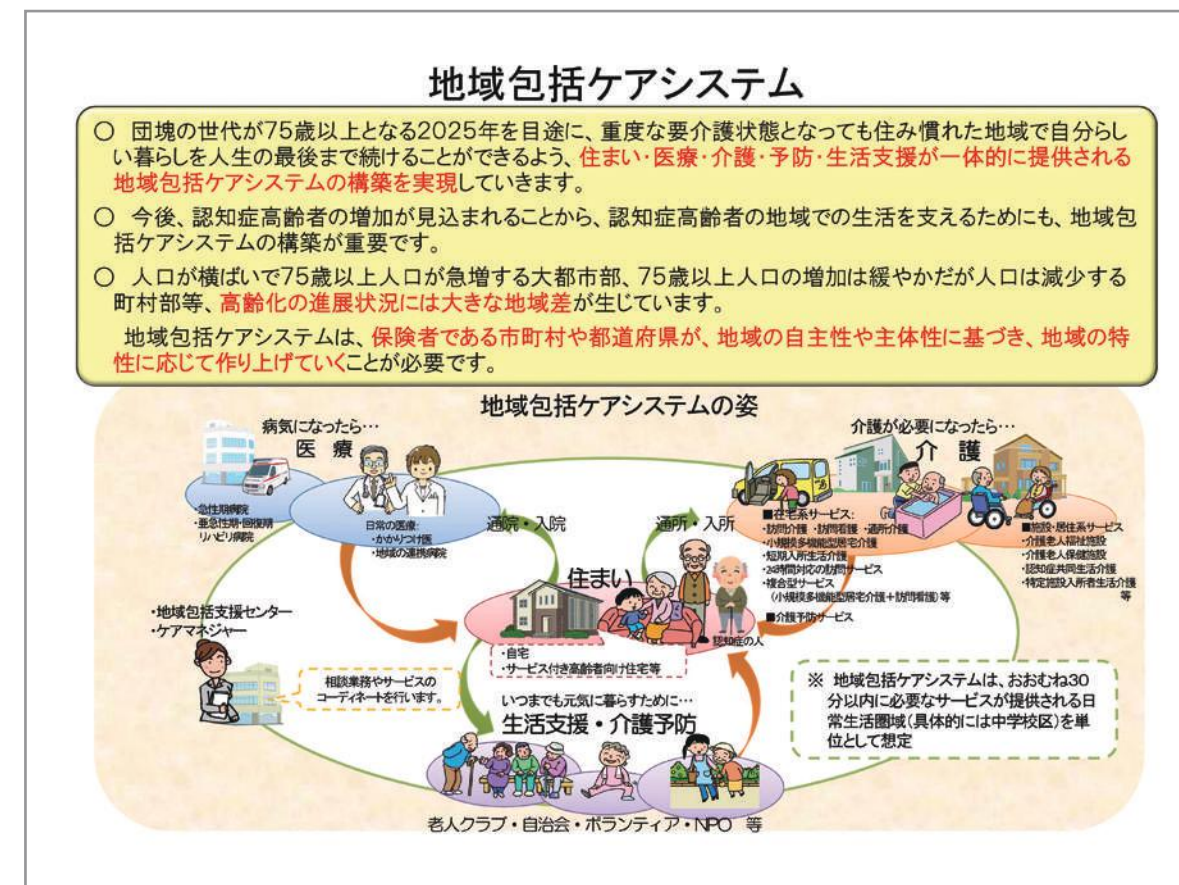
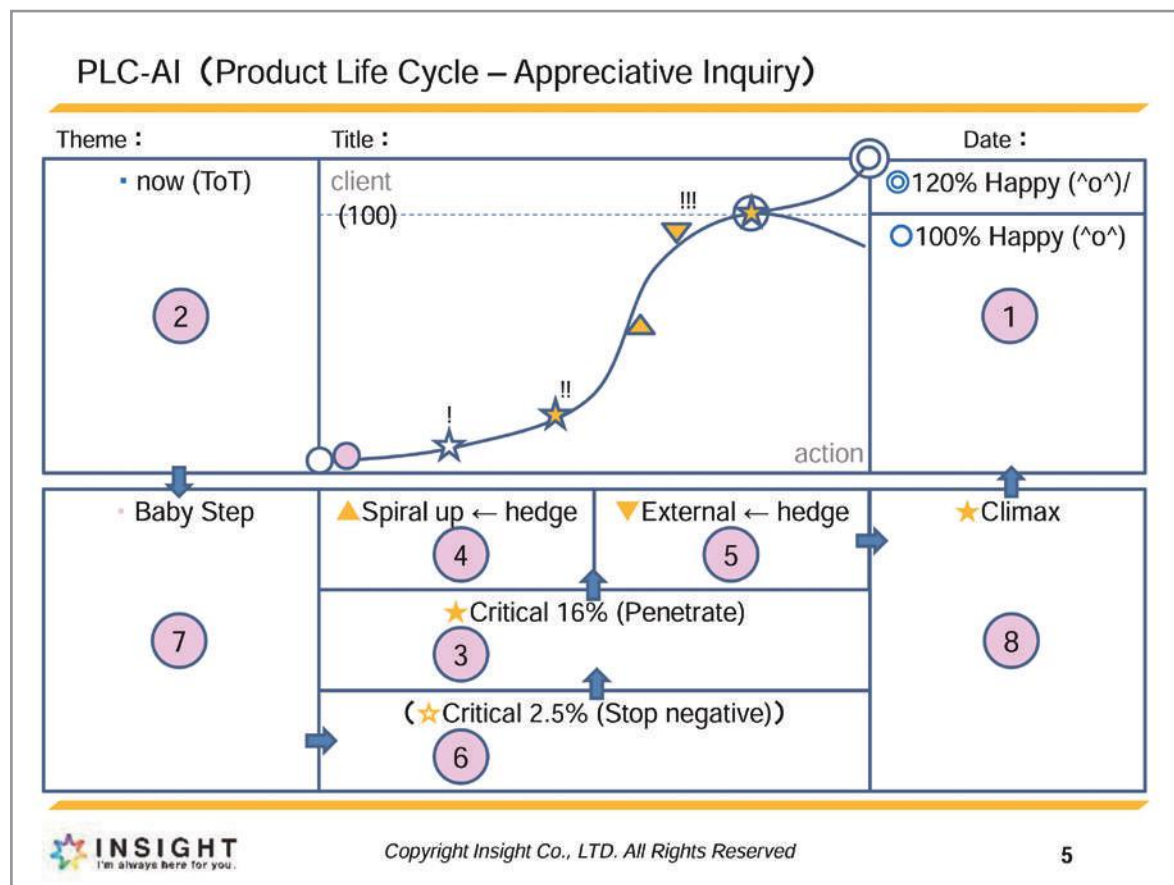
導入初期 普及遅延期 普及率16%のライン 導入末期

累積度数分布曲線 度数分布曲線

イノベーター (2.5%) オピニオンリーダー (13.5%) アーリーマジョリティ (34%) レイトマジョリティ (34%) ラグガード (16%)

INSIGHT I'm always here for you. Copyright Insight Co., LTD. All Rights Reserved 4





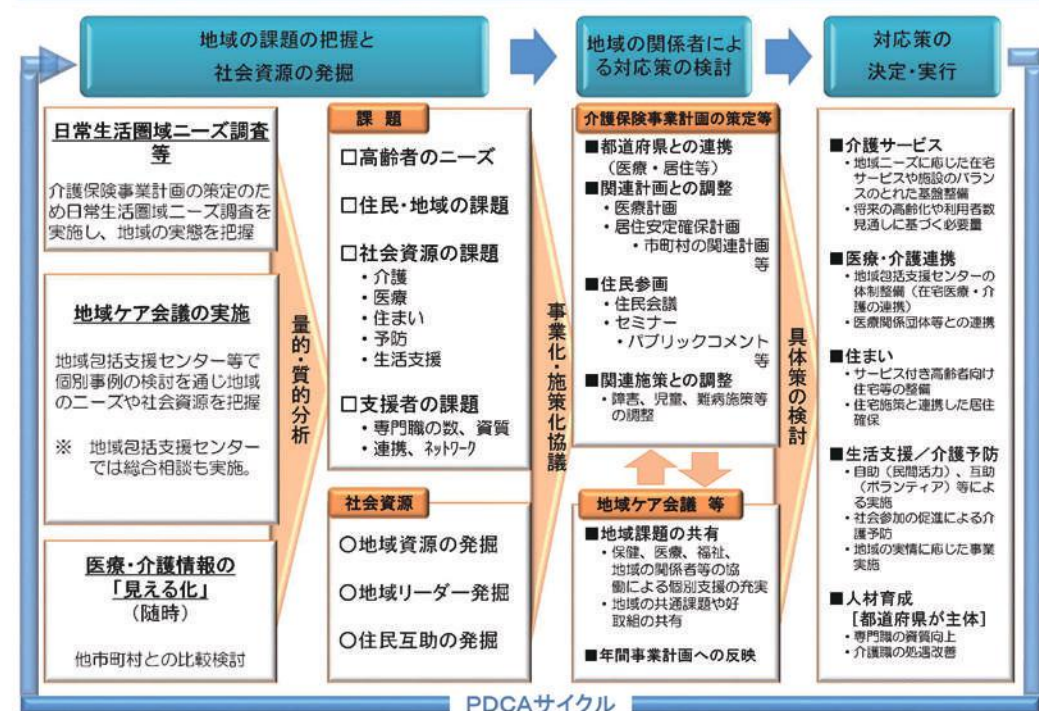
【ご参考】会議のグラウンド・ルール

- 創発を生み出す条件を、会議のルールに落とし込み
- このルールを進めても宜しいでしょうか？

<会議のグラウンド・ルール>

- 絶対に意見を否定しない ※一分退場ルール
- 腕を組まない
- 全員が心地よく、思ったことを話できるように →ファシリテーターも最大限配慮するようにします
- 一人で長く話過ぎないように →自分もみんなも大事な時間
- 上乘せ、発展、何でもあり！
- 会議の仕切りは、ファシリテーターが権限を持ちます
- 小さい声、弱い声、遠い声こそが本質的な良い情報 →大切にしましょう →正しい情報が出てくる「場」をみんなで作らしましょう！

市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス(概念図)





## 次年度へ向けて

今事業のはじまりの背景は、障がいのある方、地域の方が拠点を活用していただく中で、「居場所」「生きがい」「就労」という3つのキーワードが明確になった事からでした。これは、高齢者や障害者といった福祉を必要とする方だけの問題ではなく、地域全体の問題であると感じ、楽笑単体で取り組む事では解決できない問題であると考え、多くの関係機関と協働し連携しながら地域課題として取り組むべきだと判断しました。そこで今年度は、さんかく屋根のふれあいサロンを中心とした「居場所づくり」と就労の可能性を探る為、地場産業である農業を活用した「生きがい就農の構築」を地域の方々の意見を頂きながら形に変えていきました。

地域との関係性は、サロンの参加人数から見ても分かるように、少しずつではありますが信頼されるようになってきました。信頼から生まれる真のニーズが明確になりつつある中で、「居場所」「生きがい」「就労」という3つのキーワードをより細分化して答える必要性が出てきました。

次年度は、3つのキーワードを細分化する為に「分野別の

プロジェクト」を立上げ、障がい高齢分野のみならず、幅広い分野の方にも担い手として参画していただく場、事業を実施する場を設ける事が重要です。また、担い手として生きがいを持ち、役割を明確にして協働でまちを創りあげて行く意識の向上を目的とした「ひとづくり」にも力を入れていく必要があります。

人口減少克服・地方創生に向けて、地域交流拠点「居場所」の在り方も注目されています。障がいや高齢、児童といった縦割りの福祉ではなく、全地域住民を対象とした福祉の融合を確立するためには、より多くの方に共感していただき、地域住民と共にまちを創り上げているという達成感の創造が重要です。

その為に大切な視点は、「役割を明確にして交流を深める」「スケールフリー（緩いギズナ）を利用して人の輪を創る」「クラスター（強いギズナ）を創り出す」であると考えます。

## 事業実施団体所見 特定非営利活動法人楽笑 理事長 小田泰久

「一億総活躍社会の実現」という言葉を最近よく耳にします。その概念には「若者も高齢者も、女性も男性も、障害や難病のある方々も、一度失敗を経験した人も、みんなが包摂され活躍できる社会」とあります。まさに今事業が目指すべきところであり、今までに類をみない、超少子高齢化社会に対応できる社会保障の手法として大きく注目されていることもわかります。しかしながら言葉にすることは簡単でも、今事業の活動やミッションに共感し関心を持って頂くまでの信頼関係を構築するには本当に時間がかかりました。もしかするとまだそこに至っていないのかもしれませんが。

断片的なニーズを拾い上げ始まった今事業に対し、当初想定していた利用像とは違い、地域の求めていることの幅広さを学ぶよい気づきとなりました。横のつながりの強さも特徴的に感じ、既存の地域コミュニティの仕組みを上手に活用する事で、新たな地域の方へのアプローチに繋がる事がわかりました。

次に、個別のニーズにどのように対応するべきか、多くの課

題を残しました。生きがいとして、余暇として、多種多様な受け皿が必要であり、多くの声が寄せられることから、コミュニティサロンにおける期待度が高いことが伺えました。次年度への引き継ぎ事項として、参加される方の声や想いに耳を傾け、一緒にコンテンツを創り上げるように働きかけたいと思います。

最後に、地域コミュニティの再構築は5年、10年、20年といった長い年月をかけ、お互いの関係性をどのように創り上げていくかが一番重要なポイントだと実感しました。持続可能な仕組みにする為には、地域の新たな担い手（ボランティア）の創出、ボランティアコーディネーターの養成と配置、地域ニーズに合ったコンテンツの開発の3点が必要となります。共生型サロン事業が今後制度として認められ、市の事業として予算建てされるのであれば、是非その3点を加味していただくと、住民主導の地域支え合いが再構築され、誰もが安心して楽しく暮らせるサステナブルな地域に発展すると確信します。

